十一月の御教え

天地金乃神のおかげで生かしてもらっている人間は、合わせ鏡の間に置いてもらっているようなものである。悪いことも善いことも、みな鏡に映るように神はご承知である。信心して真の心にならなければならない。

……「天地は語る」第二十二条……

解説

直信の一人、山本定次郎師は、金光教祖様が五里も離れた自分の家の地形、建物、家族の過去の行為等、全て御存じであったことを父親から聞き及び、その人知を超えた力を不思議に思っていました。その後、青年期、熱心に参拝に勤しむ中に、ある日、教祖様に『何故その様な事が分かるのですか』と伺ったところ、『神様が全て教えて下さる』とのお言葉に徒ならぬ御神威、神徳を感じ、更に熱心に参拝を続ける中に、頭書の御教えを頂いたのであります。

神信心がなく、この様な事実を知らぬと「誰も見ていないから！」と、安易に犯罪に走るものが、後を絶たないことは、真に憂いるばかりであります。

「信なければ、おかげはなし、信心なければ、世界は闇なり」とは、正にこの事であります。

皆様、私達信奉者は、この御教えを確に頂けるよう、共々に、信心の稽古に精進しようではありませんか。